

王の王国についてお話ししましょう。(タイトルが)重複語でしょう。しかしこれが重要です。王のいない王国は存在し得ません。

ルカ17章

17:20 神の国はいつ来るのかと、パリサイ人が尋ねたので、イエスは答えて言われた、「神の国は、見られるかたちで来るものではない。17:21 また『見よ、ここにある』『あそこにある』などとも言えない。神の国は、実にあなたがたのただ中にあるのだ」。

17:22 それから弟子たちに言われた、「あなたがたは、人の子の日を一日でも見たいと願っても見ることができない時が来るであろう。17:23 人々はあなたがたに、『見よ、あそこに』『見よ、ここに』と言うだろう。しかし、そちらへ行くな、彼らのあとを追うな。17:24 いなずまが天の端からひかり出て天の端へとひらめき渡るように、人の子もその日には同じようであるだろう。

誰もが引用する有名な聖句です。

自己崇拝を愛するニューエイジの人々が特に好む聖句です。ニューエイジといいながら古代宗教の焼き直しに過ぎません。

「神の国は、実にあなたがたのただ中にあるのだ」

ここに彼らは惹きつけられるのです。「これこそ自分だ、自分は神聖な者だ」となるわけです。しかしここでキリストがいているのはあなたの心の中におられる王は一体誰なのかということです。ニューエイジの人々、古代宗教と何の変りもない世界中の異端の人々はこう考えるのです。

「神の王国は自分の中にある。私が王国を作り、自分がそれを宣布する。」

つまり自分が神だというわけです。

しかし神様との関係性をもつ人は、神様が送られた息子こそが王の王であることを理解し、そのお方との関係性をとおして自己存在、心、魂の中心にキリストを迎えるのです。そのお方を心の中にお迎えするときそこが神の国です。キリストを心の中心に迎えるときそこが神の国であり神の国の到来であるというのです。

この聖句をキリスト、つまり神が人として現れたお方から引き離して勝手な解釈をし、あざとく偶像崇拝の神学にかえてしまうことは簡単なことです。実際それはありとあらゆる自己啓発や心理学ニューエイジの異端の教えにみられるものです。その教えの本質は「あなたが宇宙の創造者だ」「すべてを引き寄せる」「宇宙の力を持っている」などというものです。

心の弱い、靈性の低い人びとがまたそういうものに惹かれます。自分が弱きものだと知りながら「神のようになりたい」「神のような力が欲しい」と願うのです。そしてこれが相対主義的思想の基本教義と結びつき、また悪魔崇拝などにつながっていくのです。

正しい王のいる神の国を自分の中にむかえることが重要です。王国をその王から切り離してはなりません。どだいそれは不可能です。キリストのいない神の国などありえません。異端者は神の国とキリストの間に「自分」を置いて自分を神の国の創造者にしようとします、それは自分をキリストにすることに他なりません。

神の国は私たちの内にあることは事実です。しかし必ずその中心にはキリストが臨在していなければなりません。イエス様は弟子にこういいます。

「あなたがたは、人の子の日を一日でも見たいと願っても見るができない時が来るであろう。」

いまは非常に切実な靈的闘いの時です。ここまで激しい大統領選は文字通りこれまでありませんでした。1776年の建国以来第二の革命を目撃しているといっても過言ではありません。全国的規模の革命といえるでしょう。この国を奪い去ろうとする力に対して立ち上がったのです。私たちすべての目の前で起こっていることですが、ミクロとマクロの関連があります。時とともに展開していきます。

先祖解怨の2、3日前に、私は大きな靈的闘いを経験しました。以前お見せしたバフォメットの姿を覚えておられるでしょうか。山羊の頭を持ち、胡坐(あぐら)をかいて座っている。そのバフォメットが私に夜襲い掛かってきたのです。靈的な闘いでした。つまるところ私の子供、末の子を殺すというのです。子供たちには話していませんでしたが、その後、2日ほど学校を休ませました。その間、信得をいつも私の近くに置きました。そのような激しい戦いがありました。

マクロでもそのような大きな靈的闘いがおこなわれてきました。先祖解怨の直前にスピーチを私はしました。その冒頭でヒラリーとトランプの2人は2つの文明を代表している、クリントンは地上で最も罪のない人間、つまり何の罪も犯していない胎児を殺すという文明を代表しているといいました。クリントンは出産予定日の1日前でも胎児を殺すことに賛同したのです。トランプは3回目の大統領候補討論会でこのことを指摘しましたが、クリントンはそれを否定しませんでした！彼女は認めていたのです。一体、全く罪のない人間を殺す文明とはいかなる文明でしょうか。それを「文明」と認めるならその文明は邪悪な文明です。それはいまわしい文明であり墮落し崩壊します。時の流れに耐えることができません。文明は嘘と偽りの上に築くことはできないからです。続かないのです。永続する文明は真理と真の上に築かれなければなりません。自由と権利が大切です。規律と道徳もそうです。すべてつながっています。

これは大きな靈的闘いです。先祖解怨の直後に大規模な投票詐欺に関するビデオが出回りました。コンピューターのプログラマーがどのように投票の機械を操作して投票結果を変えることができるかビデオの前で実演して見せたのでした。デスマス(グラフ計算機)を操作することで1票を1票と読み込ませないことができることを証明したのです。つまりヒラリー・クリントンへの投票はカウントしながらトランプへのそれはカウントしないようにすること

が可能なのです。プロはそれをデスモ・マジックと呼んでいました。それは遠隔操作も可能です。だから遠く離れていても例えばアラスカでの投票を操作することが可能だということです。それをそのプログラマーが実演しました。そのような大きな詐欺行為を暴いて見せたのです。またそれとほとんど同時にFBIがクリントンに関する捜査の再開を宣言しました。またそこにNYPD(ニューヨーク市警察)が65万通ものイーメールをアンソニー・ウィーナーから押収したパソコンから発見したと発表しました。熱心なサタンの活動家のウィーナーです。(笑)

彼の離婚した妻がフマ・アベディン、ヒラリー・クリントンの右腕であり、サウジアラビアの手先です。ニューヨーク市警察はアベディンのイーメールからサウジアラビア政府とのつながりを見つけ出しました。またアベディンの母親や兄が運営する「慈善団体」がロンドンにあり、そこにサウジ政府高官から直接資金が注ぎ込まれているといっています。またクリントン財団には何十億という資金が流れ込んでおり巨大な不正と政治家の腐敗が絡んでいます。

このような不正で腐敗した邪悪な魔女が大統領候補として立っているのです。

考えても見て下さい。FBIの捜査を受けているとわかっている者が例えばマクドナルドでアルバイトしようとしたとして採用されると思いますか。一体どうしてFBIの捜査を受けている者が大統領候補として出馬できるのでしょうか。普通ならマクドナルドも雇ってくれませんよ。それが大統領になるなんて！これがどれほどおかしなことかわかりますか。天使長的システムがいかに腐敗したものであるかということです。

マクドナルドでも雇ってもらえない者が自由世界の大統領になるというのですよ。いい加減にしてほしいものです。まさに狂気です。しかしこれは始まりにすぎません。先祖解怨の直後にウィキリークが情報を出しました。それは幼い子供と悪魔崇拝に関わるものでした。

今、真のジャーナリズムとして戦っている者たち、彼らは若者たちですがグローバリズムと全体主義、共産主義に敢然と立ち向かっています。彼らが暴露しているのです。そのビデオをみる前に、(韓国聖殿の)イ・サンヨル協会長をここに迎えて韓国の状況およびとりわけ先月、10月に起きたことを語ってもらいましょう。大事件ではありますがミクロ圏での話で初めて聞く人も多いと思います。しかしマクロ圏につながる話です。それではイ・サンヨル協会長に簡単に報告してもらいましょう。皆さん、拍手で迎えて下さい。(拍手)

「10月の真のお父様(による)聖霊役事」と題する李相烈(イ・サンヨル)韓国総会長による約55分間の報告。
(ビデオ開始後20分～1時間15分)

ここでは主に下の3点について語られた。

- ①10月5日龍平での韓オモニのスピーチの内容とお父様のみ言葉との矛盾
- ②金英順女史の受けた霊界メッセージとそれをめぐる動き
- ③劉正玉会長による原理本体論講義

李会長にもう一度拍手をお願いします。

皆さんも聞いていた内容かもしれませんがより詳細に解説してもらいました。霊界を巻き込んで大きな闘いが

あるようです。

はっきり言うておきますが、私はいかなる霊界メッセージも公認しません。これが私の指針です。様々な所で霊界からメッセージを受け取っているようですがどれも私たちが過去3年間に話してきた内容です。

また霊界と通じる人もこういったとおもったら今度は正反対のことをいうなど、お金と権力の圧力で変節します。しかし今回は公式に霊界通信を受け取ってきた女性(金英順)のものだったので多くのアジアのメンバーに大きな衝撃をもたらしました。

これらのことはすべて今のこの時につながっています。

これからお見せするビデオですが、「We Are Change」という「主権」側に立つグループから発信されたものです。マクロの視点から見れば一方でグローバリスト、中央集権、共産主義、天使長サタンの世界観があり、他方にはトランプに象徴されるアベル側、神側の「国民の主権」のために闘う側があります。もちろん後者は神の国を志向しています。そこでは人々はキリストを受け入れ、天使長圏、つまり天使長、政治家、政府官僚などを凌駕(りょうが)する主権を所有します。言うまでもなくこちらが神様に通じる道です。

昨夜、リノでトランプ候補の暗殺かとヒヤッとする場面がありました。その容疑者と思われる人物は結局、銃を持っていなかったそうですが。

ルーク・ルドウスキー Luke Rudkowski(フリージャーナリスト)という若者はTシャツ姿で時には野球帽をかぶってVIPにインタビューなどしたりしますが真のジャーナリストの仕事をしています。グローバリスト、エリートたちを追いかけ厳しく追及しているのです。自由側のジャーナリストとして彼の名を覚えておくべきでしょう。インフォ・ウォーズ、プロジェクト・ベリタスなどと共に真実を伝えるために闘っています。彼らの中にも神を信じる者とそうでない者がありますが、いずれにしても彼らはアベル型の人たちです。彼らが一致していることは、この女性(ヒラリー・クリントン)は悪魔的だということです。ヒラリーが単なる強欲な政治家、金権の娼婦的政治家であるにとどまらないことを示す事実が飛び出しています。先祖解怨の後に次々とヒラリー・クリントンとその周辺、ことにトップの者たちが何をしているのか、どのような会議をしているのかなど内部情報が明らかになってきています。これらは先週、先祖解怨後に分かったことです。これらは直接に子供たちと関わっています。

このビデオには登場しなかったですが、ルドウスキーは別のビデオでマリーナ・アブラモヴィッチという女性をあげています。一応パフォーマンス・アーティストということになっています。ウィキ・リークスによると彼女はジョン・ポデスタ(ビル・クリントン政権 2 期目のアメリカ合衆国大統領首席補佐官で今回の選挙ではヒラリー・クリントン陣営の選挙対策責任者を務めている人物)とその兄弟をスピリット・クッキング・ディナーというサタンのなパーティーに招いたそうです。

アブラモヴィッチは自分の裸体に ペンタグラム(五芒星)を刻み付けそれを芸術的、創造的だなどといい、「死に対する平凡な見方に挑戦する」などと主張しています。

これらの人々が行っているのは芸術という名をかたったサタンの行為に他なりません。(スライドを見せながら) アブラモヴィッチは腹部に五芒星を刻み付け裸体で十字架のようなものに横たわっています。こんなことをしてイエス様と十字架、キリスト教を貶(おとし)めているのです。彼らはイスラムに対しては何も言いません。きまっ てキリストに対して文句をつけるのです。なぜか？ それはキリストこそが、イエス様こそが本物だと知っているから です。

このような作品で血と内蔵を「美しく描く」というのです。これが前衛的で斬新、かつ創造性に満ちた芸術家だ というわけです。(作品をみせながら)「死体」と体外にさらけ出した内臓。これらがマリア・アブラモヴィッチの芸術 だというのです。裸体の内臓を外に晒(さら)し出してそれが芸術だというのです。

これが彼女のつくった誕生日を祝うケーキです。人体を模したケーキを切り取っては食べるのです。参加者は 面白がって食べています。そもそもサタン主義者は一体どうして「人の血や内臓や死に対するいままでの平凡 な見方を変える」などといいながらこういう振る舞いをするのでしょうか。

これらの人たちはあまりにも愚かで弱々しい哀れな者たちであるので、こういう馬鹿なことをすることで大きなエ ネルギーを得たいと思うのです。こういう善人が決してしないようなことをあえて行うことで自分を「勇敢なもの」 にみせたいのです。何も目的などありません。意味などないというのです。そこにはただ「破壊」と「冒涇」しかあり ません。他に意味などないのです。だから一般の人はこのようなことをしないのです。血が怖いからしないのでは ありません。邪悪だからしないのです。

彼女たちも神の裁きを予感しているのです、すでに地獄の火に焼かれているのです。だから死にたくないのです。 死を怖れているのです。霊的なので神の存在を知っているのです。だから自分の選んだ道のゆえに神を恐れ ています。だからこのようなことをして自分の勇ましいところをみせようとしているのです。この心理が分かります か。幼稚で低レベルなあまりに弱く哀れな状態です。

「ああ、模型とはいえ人の体にナイフを突きさすなんてなんて大胆な人なんだろう」
「自分なら恐ろしくてできない」ちよつと待ってください。こんなことは全くのおふざけの茶番にすぎません。あまり に心の弱い者たちです。心の強い人がこれを見ても凄いななどは思いません。ただの笑いものでしかないのです。 大胆な見せかけで「あなたたちは恐ろしいでしょう」と周りに誇示しているのです。皆が恐れることを自分たちは できる。平凡なルールを破った私たちは創造的だなどと思っていますが、じつは弱く哀れな詐欺芸術家です。ヒ ラリー・クリントンと共に落ちるがいい。その隠された弱さがさらけだされるのだ。これがサタン崇拝の現実です。 憐れむべき弱さです。

レディ・ガガも映っています。サタンの儀式で精液と尿のプールに女性の模型を横たわらせています。スピリット・ クッキングのビデオでは幼児の模型を部屋の隅においてそれに羊の血を打ちかけて精液と尿と豚の血で作った 液体で「左手中指にナイフを突き立てて痛みを味わえ」などと壁に書くのです。

「なんて大胆」「恐ろしい」どころか、弱い霊的敗者の愚か者に過ぎません。

レディ・ガガは悪夢に悩まされているといいます。悪夢の中で他者から襲われるのです。忌まわしいものを飲み、靈的交信をしているのですから当然のことです。同じことをポDESTA(クリントン選挙対策委員長)はしているというのです。

このパーティにポDESTAも招待され、「新鮮な」精液と母乳と尿をみなと飲んだというのです。生命のエネルギーを得て高い意識と高度な力につながるのだそうです。ニューエイジは必然的にこういうものに陥っていくのです。

今週、クリントンがアメリカ史でも類をみない墮落した犯罪一家であることが報じられましたが、ブッシュ家も変わりありません。お父様が「イラクに戦争を仕掛けてはならない。そうすると国を亡ぼす」といったのにもかかわらず一向に耳を貸しませんでした。

クリントンに関しても先週、FBIが捜査を再開しニューヨーク市警察も捜査に入り、ヒラリーの側近のフマ・アベディンはサウジアラビアとつながっていることが分かりそれもニューヨーク市警察が捜査を始めたことを皆が知りました。それらの外的犯罪とともにそれらの背後に靈的なものがあることを私たちは知っています。彼らが属する悪魔崇拝、カルトです。それこそアレクスター・クライリとその弟子のアブラモヴィッチに繋がるサタンカルトです。病んだ邪悪な精神の侵された醜く卑劣なげかわしい弱く憐れむべき愚か者です。そこに至るのです。

ヒラリー・クリントンは犯罪者であるばかりか彼女の周辺の人たちと共にサタン崇拝とサタンのパフォーミング・アーティスト心酔していることが明らかにされたのです。

パフォーミング・アーティストとは洒落た隠れ蓑ですね。

どれほど彼らが一般の人たちを見下していることか。いかにサタンが人間を見下し馬鹿にしているかというのです。人間を動物とみなしているのです。だから祭壇に供え、その肉を食べるのです。つまらないパーティで人体に見立ててケーキを作り、それを、人肉を食べるように食して喜んでいるのです。

普通の人は時に暇なときは映画をみたり、格闘技をしたり、家族でレストランに出かけたりします。ところがスーパーエリートは普通の人とは違うのです。彼らは有名なサタン崇拝者のところに精液と尿と血を混ぜたものを飲み、スピリット・クッキングに出かけていくというのです。部屋の片隅に置いた幼児の模型に血を吹きかけ、壁に血で何やら書いて、自己崇拝に浸っているのです。いかに悪魔的かというのです。

この選挙戦の靈的な面が現れています。これまでどれほどの数の中絶された赤ん坊がサタンの祭物になったことでしょうか。悪魔崇拝者からキリスト教徒に回心したザカリー・キングの証を聞きましたね。キングは中絶専門のクリニックで働いていました。サタン崇拝者は中絶クリニックに人を送りこんでいるのです。そして星の動きから指定された時間、夜中にみなで集まり、中絶された赤ん坊をルーシェルに捧げたというのです。

彼らは無神論者でもなければただのリベラルやファシストでも共産主義者でもありません。非常に靈的な者たちなのです。きわめて靈的な人々です。深く靈通しています。サタン圏に通じていることは言うまでもありません。その彼らが中絶専門クリニックに集合するのです。これまで4千五百万の赤ん坊が殺され、20億もの胎児が闇に葬り去られました。どれだけの数の赤ん坊がサタンに捧げられてきたことでしょうか。そのとき、「中絶は殺人だ」

というお父様のみ言が現れたのです。家庭連合というマイクロ圏ではびこってきたこれまでの嘘が暴かれるのと同時にマクロの次元でも同様のことが起こったのです。その両方の次元で壮絶な神側とサタン側との霊的闘いが闘われるのです。ことは大統領選挙の次元ではないのです。人間的に完全でなくても(古代ペルシャの)キュロス王のように神様のみ旨を果たそうとする者、アメリカを偉大な国にして正しい価値観を取り戻そうとする者、もちろんトランプは聖人ではありません、しかしそこに向かおうとしています。

一方でこの女性(ヒラリー・クリントン)とその身内はサタン崇拝、サタンの典礼と儀式および小児性愛に関わっています。ルダウスキーのビデオでみたように、ウィキリークはポDESTAがある女性から7才、9才と11才の少女を会に参加させるというメールを受け取っていたことを明らかにしました。

これも先週出てきた内容ですが、悪魔崇拝者、小児性愛者ばかりでなく、ビル・クリントンがマーク・エプスタインの主催する小児性愛をテーマにする会合の行われる島に27回も 出向いていたという話だけではありません。ヒラリー・クリントンもそこに6回行っていたことが明らかになりました。すべてウィキリークが発表しました。ヒラリー自身も小児性愛の島に行っていたというのです。このことから彼らの正体を垣間見ることができます。演説をする政治家の顔とは別にサタンの器になっているのです。そしてその者たちを用いてこの世を超えた世界圏から世界に天使長の力を用いて影響を及ぼそうとしているのです。いわゆる悪魔の手先です。デーモンです。あまりにも霊的になっていることに驚きます。

大勢いるジャーナリストやニュースレポーターたちもこの内容を報道しようとしません。あまりにオカルト的で誰も信じないだろうと思うからです。ウィキリークが明かして検証された内容であってもあまりに突拍子もないことなので発表できないでいるのです。

普通の人は暇なとき、フライドポテトを買いに行ったりケチャップやマスタードの付いたホットドックを買ったりするでしょう。ところがこういうスーパーエリートがサタンのパーティで「ホットドッグ3つとハンバーガー5つ」と注文するとき、それはカルト用語で「少女3人と男の子5人」を意味しているのです。

彼らは文字通りのデーモン、地上最悪の詐欺師、サタンに魂を売り渡した者、ルーシエル信者で、モロク(生贄に生きた新生児を欲しがらる悪魔)などあらゆる形でサタン崇拝をする者たちです。

神様の恩寵によって解放された子供たちは憐れむべきサタンの手下たちに聖なる復讐を行いました。是非とも子供たちには彼らを打ち続けてほしいと思います。

熾烈な霊的闘争がなされています。

次のビデオは皆さんもご覧になったことがあるかも知れません。ある兄弟が作ったものです。彼には初めて会ったのですが、人々はお父様のみ言を直接読み初めています。「お母様はこう言っているが、お父様はどう言われたのか」。以前のビデオも見せましたが、新しいものです世界の人々も見て下さい。

やはり神に出会い神を求めるためには、み言に戻らなければなりません。この時、他でもない神様と正しく関係を結ぶためです。重要な時です。大統領選挙まであと二日です。クリントンはロシアと核戦争を始めたがっています。あまりに多くの法を犯しているので皆の意識をそらせたいのです。戦争を初めてごまかそうというのです。

独裁者の古典的手法です。

またそれとは別にISIS(イスラム国)が無差別テロを選挙の日を起こすかもしれないと触れ回っています。それを恐れ怖がる必要はありません。たとえヒラリーが投票詐欺で勝ったとしてもアメリカ国民は支持しません。(そのようなことがあれば)ワシントンまで歩いてこう言いながら平和デモを行います。

「この女性を大統領に就任させることは間違っている!」「投票詐欺が行われたので票の読み直しを要求する!」

もしトランプが地滑りの勝利を起こすようなことがあればそれはそれで問題が起こるでしょう。ジョージ・ソロスやB LMなど大銀行が騒乱をきつと仕掛けるでしょう。過去にもそうしているのです。まあきつと起きるでしょう。どちらにしても困難が生じます。しかしここには人類の未来がかかっています。世界の未来がかかっているのです。

傲慢でいまわしいサタン崇拝者のグローバリストによって人類を核戦争に巻き込んで子供たちを皆殺しにして自分たちはのうのうと生き続けようとする。あるいは戦争で大もうけする。その道をいかせることを許すのか。その道を選べば破壊に通じます。そして審判は人類一般に下されるでしょう。それが邪悪なサタン主義の魔女を選んだことによる結果です。

その正体は先祖解怨の日の直後に自由側の人々(ジャーナリスト)によって暴きだされました。もしオカルト的な悪の祭司長を選んだなら、審判は人類に及ぶでしょう。その反対にトランプが選ばれるならどうでしょう。彼は世俗の王であった(ペルシャの)キュロス王と同じです。しかし神様はキュロスを用いてバビロンを滅ぼしました。そして選民を解放したのです。トランプが当選したなら、ヒラリーをLOCK UP(投獄)しなければなりません。

トランプが大統領になったなら連邦官僚、政府に潜む悪の要素に対し戦いを宣言しなければなりません。トランプ支持者たちが叫んでいた言葉を聞いたことがありますか。

‘Drain the Swamp’(訳注:「沼地を乾かす」そこから「政府の腐敗を一掃する」という意味で使われる)

これは聖書のみ言でキュロス王について述べたものです。(ユーフラテス)川を減水させてバビロンに侵攻して政治家など悪の要素を滅ぼしたのでした。(訳注:イザヤ書にキュロスに関連して川が干上がる‘drain the swamp’という聖書の預言がある)

トランプは彼らが作った不法な法で彼らを裁き、投獄しなければなりません。そうすることで罪のない一般の人々への審判は避けられ、混乱をもたらした天使長に審判が下るのです。しかしそれでも審判自体免れることはできません。

そういう信じられないほど特別な時代に生きているのです。どの国に住んでいようと関係ありません。ここで起きることが世界に影響を与えるのです。だれも核戦争の影響からは逃れられないでしょう。ロシアと核戦争が始まるなら地球のどこまで逃げても逃げ切ることはできません。そのような時代なのです。

私たちは投票者へのチラシをもってショッピングモールなどに出かけ配りました。家々の窓にポスティングもしました。それは人々を目覚めさせ意識してもらうためです。

あと2日で投票日がやってきます。大きな不正投票、不正選挙が行われることでしょう。だから政府も出口調査をするのです。とくに激戦州ではカメラを設置したり出口調査をするなどして警戒する必要があります。深刻な時なのです。不正投票はあるでしょう。

しかし多くの人々、世界中の多くの人々が目覚めていることも事実です。いかに腐敗して邪悪でガタガタになっており、またサタンの的になっているのかに気づき始めているのです。最終的に彼らは滅びます。審判のこのときわれわれにも5%があります。世界的審判をもたらすのか、混乱をもたらした天使長を法の上限で処断して投獄し、審判を下すのか。それは私たちの選択として残されているのです。あと2日です。

信じられないほど凄い時代に生きているのです。恐るべき時代であるとともに神の働きを見ることのできる時代です。

S. O. Sは用意して下さい。

祈りのときには必ず大統領選挙について祈ってください。何としても熱い戦い(核戦争)は避けることができるように。それは避けたいのです。できるだけ穏やかに迎えたいのです。審判が当事者にだけ下され関係のない人々を巻き込むことが避けられるように。

賛美と感謝を万王の王に捧げましょう。この世界の運命について、また2日後に迫りくる選挙について祈りましょう。

翻訳:サンクチュアリNEWS管理人

サンクチュアリNEWS

<https://nqj17437.wordpress.com/>